

図10

他の一般的なさまざまなカテでも、縮小を試みたが、カテの先端の変形が生じ、ステントの径を縮小させることは不可能であった。

② Cook社製の、のMullins Typeのロングシースのダイレーターを回収カテとして代用したところ、ステント径の軽度の縮小は見られたが、ダイレーター（特にテーパー部）にも変形を生じた。（図11、12、13）

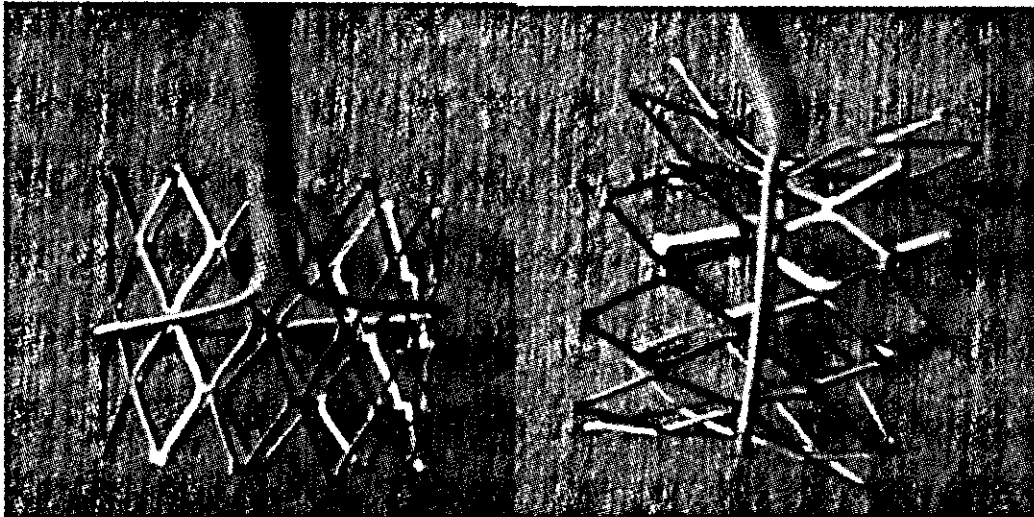


図11

図12

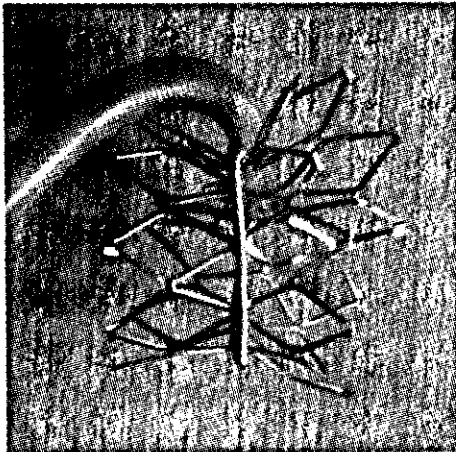


図13

そのため、③ ダイレーターのテーパー部（柔軟部）を切断し、硬部のみにした所、スネア部のステント径は小さく潰されたが全体には星型になりむしろ危険な形となった。（図14、15、16）

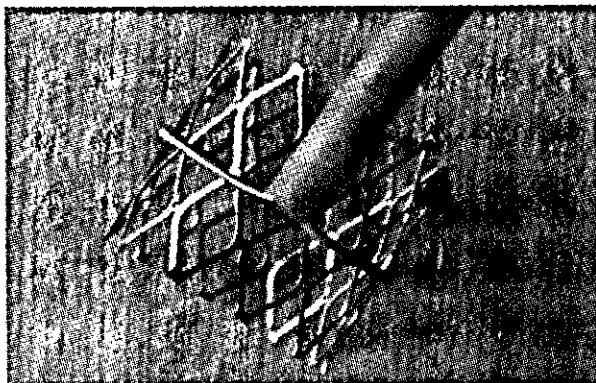


図14

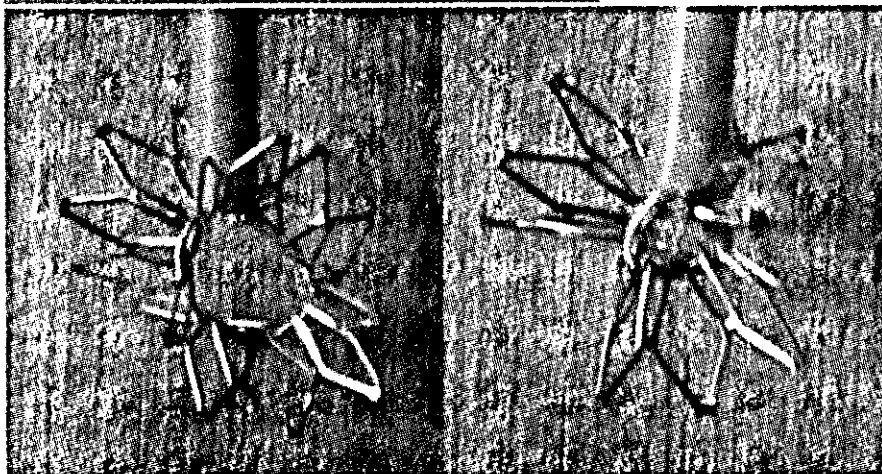


図15

図16

しかも、向きが悪いと縮小しても（図17、18）のように、ロングシース内に回収できない事（体外摘出が困難な事）が予想された。

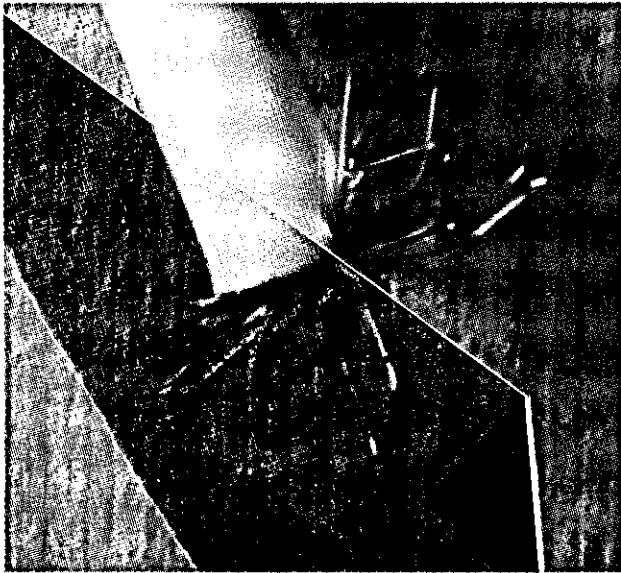


図17

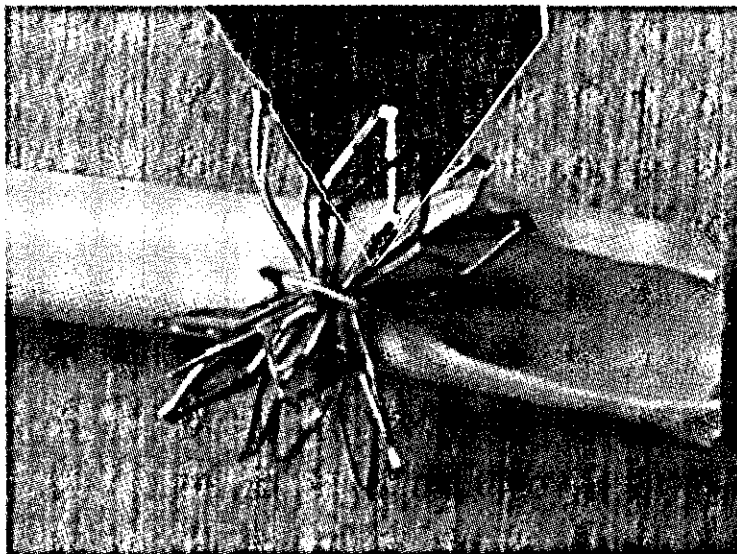


図18

この対処としては、図19のように、ステントの縮小を行う前に、ステント内にワイヤーを挿入することで、方向を制御することが可能と思われる。

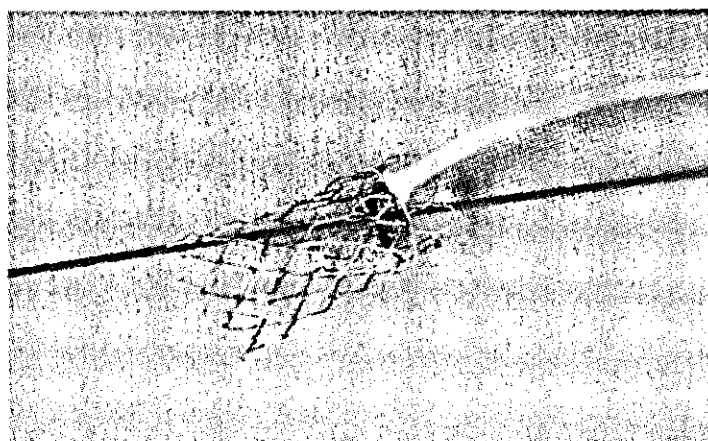


図19

結語

PALMATZ large stent において、径6mm程度までは、Amplatz Goose Neck Snare Kit による径縮小は可能であったが、径11mmでは一般のカテーテルによる径縮小は不可能であり、Cook社製の、Mullins Typeのロングシースのダイレーターの先の柔らかい部分を切断し、硬部のみにしたものを付属のスネアークアテに代えて使用した時のみ径の縮小が可能であった。拡張後の PALMATZ large stent の迷入回収において Amplatz Goose Neck Snare は把持が目的であり、ステント径の縮小には不適と考えられた。ステント径の縮小には、2002年度の報告のように、ロングシース等の圧迫が必要と考えられる。ステントの回収を考えると、ステント径の縮小だけでなく、ステントの向きが重要であり、縮小前に、superstiff wire等の通過が不可欠と考える。